

1 地震の特徴

震度分布から、今回の地震の特徴が見えてくる。

- (1) 山間部の日野町と沿岸部の境港が「震度6強」を記録している。
- (2) 震度の大きな地域が岡山県から四国まで、南側に広がっている。
- (3) 松江、鳥取、出雲など、震源までの距離が近いのに震度が小さい。

被害は震度6の地域に集中している。マグニチュード7.3の大地震にしては被害が少ないのは、発生時間が午後1時30分、震源が山間部で激震域も都市部でなかったことが原因の1つである。被害の種類は、家屋の倒壊、山間部での斜面崩壊、落石などの地震動による被害と沿岸部での液状化現象による地盤災害がある。前者は日野町黒坂、下榎地区、西伯町、溝口町などが大きな被害を出したが地盤が比較的良かったために、全壊になるべきところが半壊になっていると推察される。しかし、山間部を走る道路、鉄道は大きな被害を受け、不通箇所が多く出た。境港市、米子市では都市型の被害が出ている。港湾岸壁の崩壊、マンホールの抜き上がり、電信柱の沈下など、またライフラインの被害が随所に見られる。

(鳥取大学工学部教授 西田良平氏記述による)

2 被害の概要

米子市における被害は、弓浜地区を中心とした液状化現象あるいは地盤の影響と推測される住宅被害、また、成実・尚徳・五千石地区から陰田町にかけての敷地内の水、土砂の噴出また敷地の地割れによる家屋の傾斜、傾斜地における石垣あるいは擁壁の崩壊による家屋の傾斜等の住宅被害が顕著といえる。特に、液状化現象による安倍彦名団地及び富益団地における住宅被害や吉谷、榎原地区などの傾斜地における住宅被害は象徴的である。

また、特殊な要因によるものでは、大沢川管きよの影響と思われる住宅被害も特徴の一つと考える。

住宅以外の被害では、彦名干拓地が液状化現象によりかなりの被害を受け、米子水鳥公園のネイチャーセンターも大きな被害を受けた。また、公共施設では、学校、公民館、保育園、道路、河川、港湾、公園、水道、下水道など広範囲で甚大な被害が発生している。

この地震による被害の特徴としては、弓浜地区を中心に予想はされていたものの液状化現象によると推測されるものが広範囲にわたったこと、また、震源地に近い成実、尚徳地区などの南部地区での被害が大きかったことであるが、『阪神・淡路大震災』のような火災・死亡・行方不明者がなかったことは幸いであった。

特に、火災が発生しなかったことが人的被害が広がらなかった大きな要因と考えられるが、住宅被害の特徴として倒壊した住宅が少なかったともいえる。老朽化した納屋などは倒壊したものがあつたが、住宅部分は被害を受けても倒壊はしなかったものが大多数である。

したがって、逆に外観だけではわからない被害の大きさが今回の住宅被害の特徴であり、それが市内の広範囲で発生していることから復旧には相当の日数がかかることが予想される。

このたびの震災においては、被災者の生活再建には住宅再建が不可欠であることから、全国で初めて住宅復興への新たな補助制度を鳥取県とともに創設し、復興に向けて取り組んでいるところである。